

教育学部 コース 専攻・専修の紹介

(令和7年度滋賀大学入学者選抜要項より抜粋)

教 学 部

1. 立 地

本学部は大津市の南部、琵琶湖から流れる瀬田川のほとりの小高い丘陵地にあります。紫式部で名高い石山寺、松尾芭蕉が暮らした幻住庵など、大学から歩いて行ける距離にはいくつもの史跡があり、通学の往復路は瀬田川に沿って美しい景観が展開します。キャンパスは15万平方メートルの敷地を有し、勉学、スポーツや文化活動等を通じ友情を深めるのに最適な環境を整えています。その一方で、最寄のJR石山駅へは京都駅から約15分、大阪駅からは約45分とアクセスに恵まれています。

2. 学部概要

本学部は教員養成に長い歴史をもち、これまで多数の教育者を育ててきました。卒業生の方々が滋賀県をはじめ全国で活躍されています。本学部は、こうした実績を踏まえ、様々な教育課題に対応できる実践的指導力を備えた教員の養成を目指しています。

3. コース 専攻・専修の紹介

○ 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程のカリキュラムは「教養教育科目」のほかに三つの柱からなっています。一つ目は教育の意義や歴史、教育方法などを学ぶ教員養成基本科目(教職科目を含む)です。二つ目は、実際に小中学校などへ行き、教育実習や学校ボランティア活動など、子どもと直接ふれあう経験を通して実践的指導力を身に付けていくための教育参加科目です。三つ目は、教科の授業力を向上するための得意分野育成科目であり、この中には、いじめ・不登校問題や環境問題、国際理解教育など学校教育や現代社会が抱えている課題を解決するための基礎を学ぶ科目も含まれています。

学生同士が切磋琢磨し、アットホームな雰囲気のゼミなどで教員から指導が受けられる環境の下、これら三つの柱を関連づけて学びながら、知の探求と実践的力量の向上を目指し、充実した大学生活を送ることができます。

学校教育教員養成課程は、初等教育コース・中等教育コース・障害児教育コースの3コースから構成されており、初等教育コースと中等教育コースは、さらに、専攻・専修に分かれます。各専攻・専修の概要は、次のとおりです。

①初等教育コース 教育文化専攻

学校を軸としながら、家庭、地域、社会といった教育の場の広がりや相互の関連のなかで、そして人間の生涯という時間軸のなかで、教育を捉えなおす能力や教育者としての仕事を理解し今後の学校教育のあり方を構想できる能力を身に付けた教員の養成をめざしています。そのために、教育の理念や制度といったフォーマルな観点に加え文化の側面からも生きた教育を多角的・統合的に捉えなおす能力を、また教育の場における現代的諸課題を主体的・多面的に洞察できる能力を、具体的な教育現実の省察を通して育成します。教育学及び関連する分野の基礎的な学習はもちろん、学校及び社会の多様な場における教育や学習活動を実践的に体験し、理論と実践の往還的学習ができる機会を多く設けています。

②初等教育コース 教育心理実践専攻

児童・生徒の成長過程とその背景、学習の過程と教師からの指導方法、子どもと他者・社会との関わり、学校の諸問題に対する心理的な支援の方法、進路や職業の選択など、学校において、児童・生徒を深く理解し指導するうえでの重要な課題について学びます。子どもを心理的な面からとらえることにより、現代の子どもをめぐる困難な問題を解決する理論的背景を知り、同時に臨床的なまなざしに根ざした実践的な対応力を身に付けます。

③初等教育コース 幼児教育専攻

生涯発達の基盤となる乳幼児期の重要性を踏まえ、幼児教育学、幼児心理学、幼児教育方法学を柱として、乳幼児期の子どもの発達とそれを援助する幼児教育の理念及び方法について学びます。保育士資格については国家試験による取得を推奨し、卒業時までの資格取得をサポートするとともに、保育所・認定こども園で必要となる知識や保育実践力について学ぶ科目もカリキュラムとして用意しています。子育て支援や小学校教育との接続といった幼児教育・保育が直面している今日的課題にも幅広く取り組める、幼稚園教諭や保育教諭を養成します。

④初等教育コース 國際理解教育専攻

異なる国や民族の人々の歴史・文化・生活を互いに尊重し、理解し合うことのできる国際的な視野を持ったこどもを育てるための理論と方法について学びます。多文化共生、ダイバーシティ、言語文化を中心としたカリキュラムを用意し、学校における国際理解教育のリーダーとして活躍できる教員、さらに、日本の学校に在籍する外国にルーツを持つ児童・生徒に対する教育支援のできる教員の養成を目指します。

⑤初等教育コース 環境教育専攻

身近な自然や生活の中で自分と環境のかかわりに気づき、理解し、行動を起こせる子供を育てるには、知識として環境の大切さを学ぶだけでなく、具体的な活動や体験を通して、人や社会、自然とのかかわりに関心をもつことが大切です。環境教育専攻では、このような活動や体験を核とした環境学習を教科横断的に実践できる教員を養成します。環境に関する講義科目に加え、琵琶湖を中心とした自然豊かなフィールドで行う湖沼学実習や栽培実習などの実習科目、子供たちの体験活動を企画・運営する演習科目などを通して、環境に関する専門的な力と環境学習をコーディネートする力を身につけます。

⑥初等教育コース 初等理科専攻

自らも理科を楽しみながら理科の面白さを伝えられる教員の養成を目指しています。自然界の事象に対する疑問について、観察・実験を通して児童自らが考え、その答えを見つけるように指導や支援を行うことが重要と考えます。そのためには、学校現場での指導経験を含めてより実践的な体験も行う必要があります。そこで、小学校教科の中でも理科を得意分野とすることができるよう、物理・化学・生物・地学各教科専門教員の指導により小学校理科の観察・実験で必要な技能を身に付け、さらに理科教育学専門教員から児童の考え方やそれにもとづく教育法を学びます。

⑦初等教育コース 初等英語専攻

小学校高学年における英語の教科化と、中学年における外国語活動が開始されるなかで、確かな英語指導力を備えた小学校の教員が緊急に求められています。初等英語専攻では、初等英語教育の意義と専門的な知識を踏まえ、初等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、児童の実態に即した指導プランを構想し実践することのできる教員の養成を目指します。英語という言語及び異文化に対する深い理解とともに、初等英語教授法の専門知識を身に付け、小学校において英語の専科教員及び英語教育のコア教員となる英語指導力をもつ教員の養成を目的としています。

初等教育コース 初等教科専攻の各専修については、中等教育コースの各専攻と一緒に記載しています。

⑧初等教育コース 初等教科専攻 国語専修

中等教育コース 国語専攻

初等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、初等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、児童の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・国文学・漢文学・国語科教育があります。初等教育コースは、上記のいずれかを得意分野とする小学校教員を志望する人が対象となります。

中等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、中等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、生徒の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・国文学・漢文学・国語科教育があります。中等教育コースは、中学校・高等学校の国語科教員を志望する人が対象となります。

⑨初等教育コース 初等教科専攻 社会専修

中等教育コース 社会専攻

初等及び中等段階の社会科教育を担うことができる教員の養成を目指しています。現代の社会は、変化が激しく、また異なる文化や価値観との共存や国際協調が必要な社会になっています。このような社会で、社会に対する深い理解に基づき、諸問題の解決に取り組み、よりよい社会の形成に参画するための資質や能力が求められています。私たちはこのような資質や能力を育成するための社会科教育を担うことができる教員の養成を目指しています。そのため、高等学校までに学ぶ社会科や地歴科・公民科すべてに自信のある生徒を求めていました。初等教育コースでは、社会や社会生活に対する児童の関心を高め、それらに対する理解を深めるための教育ができる教員を養成します。中等教育コースでは、地理・歴史・公民分野の専門的な知識を基礎にして、幅広い視野と関心から、中等教育にふさわしい内容と方法で、それらを教えることのできる教員を養成します。

⑩初等教育コース 初等教科専攻 算数専修

中等教育コース 数学専攻

小学校、中学校、高等学校と学年が進むにつれて、「算数・数学嫌い」は増える傾向にあります。これに対処するために、教師は子どもたちが「算数・数学をどう理解するのか」「どこでどうつまずくのか」など、児童・生徒の実態を十分に把握するとともに、算数・数学への広い関心をもつことが必要です。「学校数学とは何か」に関する深い知識を身に付けるとともに、教科内容と子どもの活動を関連づけ発展させるための指導法を学べるようにカリキュラムを構成し、「算数・数学をどう教えるべきか」を考えることができる実践力のある教員の養成を目指します。

⑪中等教育コース 理科専攻

自らも理科を楽しみながら理科の面白さを伝えられる教員の養成を目指しています。自然界の事象に対する疑問について、観察・実験を通して生徒自らが考え、その答えを見つけられるように指導や支援を行うことが重要と考えます。そのためには、生徒の目線で考える姿勢や自然科学の理論体系を含めた理科の幅広い知識を養う必要があります。そこで、中学校・高校の理科教員に必要な専門知識や専門分野の理解を深めるための講義や演習の受講、最先端研究に関する知識の習得などを行います。それと共に理科の効果的な指導法や理科教育学について専門的に学びます。

⑫初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修

中等教育コース 音楽専攻

初等教育コースでは、音楽を得意とする幅広い視野を持った小学校教員を、中等教育コースでは、音楽の専門性の高い教員を養成します。子どもたちの豊かな感受性や表現力を育てるための理論と実践を、音楽の表現や鑑賞など、広い意味での音楽活動を通して学びます。具体的には、音楽教育、作曲、声楽、器楽、音楽理論、音楽史などの分野について基礎を習得したうえで、表現の多様性や専門性を追究します。授業は、音楽科教育等のクラス授業のほか、声楽、器楽のレッスンや作曲の作品制作指導、音楽教育の論文指導など、きめ細かな個人指導を重視しています。

⑬初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修

中等教育コース 美術専攻

初等教育コースでは、小学校教員として特に図画工作を得意とする教員を養成します。そのために、「図画工作科教育法」を中心に児童の発達や特性を踏まえ、「造形遊び」にみられるような子どもの主体的な造形活動を保障する授業の在り方や、広く子どもの学習活動を支える図画工作科の重要さとその意義を学びます。また、「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」の各専門的な領域から、小学校教員として必要な表現及び鑑賞の教材開発能力及び実践方法を身に付けることを目指します。

中等教育コースでは、中学校・高等学校の美術科教員を主に養成します。そのために「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」などの制作と理論をより専門的に学ぶと共に、「美術科教育」関連科目によって美術教育の理念及び題材開発や実践方法を身に付け、美術に対する深い力量と専門性を持った教員の養成を目指します。

⑭初等教育コース 初等教科専攻 体育専修

中等教育コース 保健体育専攻

共通して体育（保健体育）に関する高い専門的知識と技能を持った教員の養成を目指しています。そのため、理論として、保健体育科教育学、体育学（武道論、スポーツ社会学、スポーツ心理学など）、運動学（体力科学、スポーツ運動学、運動生理学など）、学校保健（衛生学及び公衆衛生学、学校保健）を学び、実技として、球技、水泳、陸上競技、器械運動、武道、スキー、ダンス、救急処置などを習得します。また、初等教育コースでは小学校教育の場で、中等教育コースでは中学校ならびに高等学校の保健体育科教育の場で、効果的な学習指導を展開するための教材開発や授業づくり、カリキュラムづくりについて深く探し、実践的指導力の基礎を形成します。これらを通して、体育分野と保健分野のバランスのとれた、地域で核となって活躍できる教員を養成します。

⑮初等教育コース 初等教科専攻 情報・技術専修

中等教育コース 情報・技術専攻

科学技術や情報通信技術の基礎を学び、それらの生活への活用についての認識を深め、健全な情報社会の発展や科学技術の進歩に寄与できる実践的能力を有するとともに、生活に必要な技術を身に付け、工夫し、創造する能力をもった子どもを育てるための理論と方法について学びます。さらに、中学校・技術科教育や小中学校におけるプログラミング教育をはじめとする情報教育のリーダーとして、これらの教育に関するカリキュラム開発や教材研究を行い、児童・生徒の実態に即した指導計画を作成して実践できる優れた教員の養成を目指します。

また、e-Learning やインターネット環境を積極的に活用した学習環境の中で、文理融合の情報学、科学技術リテラシーに関する教育も推進します。このために必要となる情報と技術に関する広い知識の習得や各種メディアを積極的に活用できる能力の育成も目指します。

⑯初等教育コース 初等教科専攻 家庭専修

中等教育コース 家庭専攻

家庭科は、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度を育成することを目標としています。小学校、中

学校、高等学校の家庭科でこれらの指導に対応できる専門的・総合的実践力を備えた家庭科教員の養成を目指しています。主な教育・研究分野としては、家庭経営学、食物学、被服学、住居学、保育学、家庭科教育学などがあります。初等教育コースでは、子どもの生活を理解し、家庭科得意とする小学校教員の育成を目指します。中等教育コースでは、家庭科教育に優れた指導力を持つ中学校・高等学校教員の育成を目的とします。

⑯中等教育コース 英語専攻

グローバル化の推進のために英語教育全般の質的変換がはかられるなかで、確かな英語力と英語指導力を兼ね備えた教員が求められています。本専攻では中学校・高等学校の英語教員に求められる専門知識と教育に対する広い視野と高い問題意識をもち、中等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、生徒の実態に即した指導プランを構想し実践することのできる教員の養成を目指します。専門分野としては、英語学・英米文学・英語教育があります。英語という言語、及び英語圏の文化・文学に対する専門的な知識と理解、優れた教授法を身に付けた、実践的な指導力をもつ教員の養成を目的としています。

⑰障害児教育コース 障害児教育専攻

知的障害、肢体不自由、病弱及び自閉スペクトラム症、LD、AD/HD 等の発達障害のある子どもたちに携わる教員の養成を目指しています。その教育の場は、特別支援学校(養護学校等)、特別支援学級、通常学級に広がっています。また、地域での生活、就学前保育・教育、卒業後の生活や就労の保障など地域での一貫した取り組みが重要になっています。そのため本専攻では、障害児教育、障害児心理、障害児病理、障害児福祉の分野について総合的に学べるカリキュラムを用意しています。

4. 履修科目の概要

教育課程は、全学共通の教養教育科目と本学部の教育科目からなります。

教養教育科目は、「大学入門科目」「全学共通教養科目」「外国語科目」「体育科目」から構成されています。大学入門科目は、「大学入門セミナー」など3科目からなり大学で学習するにあたり必要な基本的スキルと心構えを身に付けます。全学共通教養科目は、ヒューマニティーズ、サイエンス、クリエイティブ・スタディーズの3分野に多彩で魅力的な科目が開講され、幅広い知識と視野から物事を考える能力を養います。外国語科目は、異文化理解とコミュニケーション能力の育成を、体育科目は、体力づくりや身体管理について学びます。

授業科目は「教員養成基本科目」「教育参加科目」「得意分野育成科目」から構成されています。教員養成基本科目は、共通教職科目、初等教科内容学と初等教科教育学などからなり、各種教員免許状の取得に共通して必要な科目を履修して学校教員としての基礎を身に付けます。教育参加科目は、教育実習プログラムと教育体験プログラムからなり、実践的な能力の育成のために、子どもとのふれあいや、授業だけではない子どもの学びを理解し作り上げる体験を重視するとともに、教育現場における体験を大学における学習に結びつけるプログラムです。得意分野育成科目では、各専攻の専門科目は、学問的な見識を身に付けるとともに、学校教育における指導力に結びつけることを目標としています。

さらに、GIGAスクール構想を踏まえ、Society5.0時代に活躍する新しいタイプの教師の養成を目指す取り組みとして「教育データサイエンティスト養成プログラム」を実施しています。

また、教育の現代的な課題に対応することができる実践的な教師の養成をめざす取り組みとして「ダイバーシティ教育専門科目群」履修プログラムを実施しています。

本学では、少人数教育により学生の主体的な学習を促し、卒業論文等を作成する過程を重視しています。

卒業生には、「学士（教育）」の学位が与えられるとともに、卒業に必要な単位を修得することにより次の表に示す教員免許状が取得できます。さらに、必要な単位を修得することにより次の表に示す種々の教員免許状が取得できます。所属専攻以外の学校種や教科の免許状の取得も可能です。

教育職員免許状以外に、次の表に示す社会教育主事の基礎資格、学校図書館司書教諭の所要資格が取得できる授業科目が用意されており、それらの科目を修得することによって資格取得のための試験・講習の一部が免除されます。

課程	コース	専 攻	卒業に必要な単位を修得することによって得られる教育職員免許状等	取得可能な教育職員免許状等(*1)
学校教育教員養成課程	初等教育コース	幼児教育専攻	幼稚園教諭1種免許状	幼稚園教諭1種免許状
		教育文化専攻 教育心理実践専攻 国際理解教育専攻 環境教育専攻	小学校教諭1種免許状	小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 教科：国語、社会、数学、 理科、音楽、美術、 保健体育、技術、 家庭、英語
		初等理科専攻		
		初等英語専攻		
		初等教科専攻		
	中等教育コース	国語専攻 社会専攻 数学専攻 理科専攻 音楽専攻 美術専攻 保健体育専攻 情報・技術専攻 家庭専攻 英語専攻	中学校教諭1種免許状 教科：国語、社会、数学、 理科、音楽、美術、 保健体育、技術、家庭、 英語	高等学校教諭1種免許状 教科：国語、地理歴史、 公民、数学、理科、 音楽、美術、 保健体育、 家庭、情報、英語 特別支援学校教諭1種免許状(*3)
		障害児教育専攻	小学校教諭1種免許状 特別支援学校教諭1種免許状(*3)	社会教育主事の基礎資格(*4)
			中学校教諭1種免許状(*2) 特別支援学校教諭1種免許状(*3)	学校図書館司書教諭(*5)

- 注) *1. 取得可能な教育職員免許状等とは、卒業に必要な単位に加えて「教育職員免許法」等に定める所定の単位を修得することによって得られる免許状です。ただし、時間割の編成上、4年間で履修計画が立つように約束されているものではありません。
- *2. 取得できる中学校教諭1種の教科は、他の専攻において取得できる中学校1種の教科のうち、いずれかを選択することとなります。
- *3. 「知的障害者に関する教育の領域」「肢体不自由者に関する教育の領域」「病弱者に関する教育の領域」の3領域です。
- *4. 「社会教育主事の基礎資格」取得者には、「社会教育士(養成課程)」の称号が付与されます。
- *5. 申請要件の科目及び単位を修得し、学校図書館司書教諭講習の委嘱大学を通して申請することにより取得することができます。

5. 卒業後の進路

卒業生の多くは、幼稚園から高等学校、特別支援学校といった幅広い校種の教員になっています。就職できる学校の種類は、取得した教員免許状に基づいて決まります。複数の教員免許状を取得した場合は、教員採用試験を受ける際に、本人の能力・適性に応じて自らの意思で学校の種類を決めることができますし、教育現場では複数の免許状を所持する教員のニーズが高まっています。また、教職大学院に進学して実践に関わり専門性を深める道もあります。

6. 附属教育研究施設

「教育実践総合センター」は、教職支援と地域共同研究を中心に業務を行っています。教職支援としては、教育実習での指導や教職キャリア教育などを行っています。地域共同研究としては、県や市町の教育委員会及び各学校園と連携しながら、教育課題や授業実践等に関して研究を行っています。その他、幼稚園から高等学校までの児童・生徒のための講演会、教員研修等のための出前講義、学生の学校ボランティア派遣、発達障害や不登校への教育相談などの業務も実施しています。

「音楽教育支援センター」は、障害児者の音楽教育・音楽活動の支援を目的に、令和2年10月に設置された教育学部の附属教育研究施設です。障害児者対象の音楽教育事業として、特別支援学校等でのコンサート、センターでの音楽療法・ピアノレッスン、指導者研修会、先端研究などを行っています。

7. 附属学校園

本学部には、児童・生徒の発達段階に応じて、幼児教育、初等教育、中等教育、特別支援教育を行うとともに、学部における児童・生徒及び幼児の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習の実施に協力することを目的として、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を設置しています。